

## ナセ BA 先人顕彰コーナー 「大正の米沢大火と復興」

(各章解説)

### はじめに

今から 100 年以上前の大正時代、米沢の街は 2 度の大火におそわれました。

街の大半を焼いた大火によって、多くの人びとは家や財産を失い、きびしい暮らしを余儀なくされました。そして、街や暮らしの復興に向けては多くの問題や困難が待ち受けていました。

今日の街並みからは大火の様子を想像するのは難しいですが、今に伝わる資料から米沢の先人たちの努力の歴史をうかがい知ることができます。

火災が発生しやすいこの時期、日頃の防災意識を見つめなおす機会になりましたら幸いです。

### 1 大正の大火以前の米沢

江戸時代から明治時代までのおよそ 300 年の間、米沢では大火と呼ばれるような大規模な火災は 10 回以上起りました。別ページにある大火の年表をご覧くださいと、ほとんどの大火は春に起こったことがわかります。春先の乾燥した空気と強い風によって炎が広がっていったものと考えられます。

ここでは、大正の大火より前の米沢の街の様子がうかがえる資料を展示しました。風情ある家並みが広がっていたことがわかりますが、その多くは、燃えやすい材質で作られている建物でした。大正の大火の後、特に屋根の材質が問題視されていきました。

### 2 大正 6 年と 8 年の大火

大正 6 年 (1917) 5 月 22 日、代官町 (現 城西三丁目) から起こった火事は西からの強風にあおられ、当時の市域の 1/3 が焼失しました。また、その 2 年後の大正 8 年 5 月 19 日には、館山口を火元とした火事が前回同様の強風によって燃え広がり、1000 戸を超える家屋が焼失しました。この 2 度にわたる大火によって、市街の大半が焼失してしまいました。

ここでは、当時の被害の様子を伝える資料や、大火に遭遇した人びとの対応や思いがうかがえる資料を展示しています。

### 3 復興への途1 ～義援金は誰のもの？～

米沢の大火の様子は、新聞などを通じて全国に伝えられると、全国各地から義援金が集まりました。大正6年の大火の際に集った義捐金の総額は8万5千円を超えたとされます。(現在の貨幣価値に換算すると数千万円以上になります。)

大正6年の大火の後、集まった義援金が被災者になかなか分配されず大きな問題となったことが新聞などの資料からうかがえます。その原因には、県と市の方針が長い間一致しなかったこと、義援金を被災者に分配せずに窯業場や製材場の事業のために流用しようという考えがあったことなどがあげられます。

紆余曲折を経た経験が活かされたのか、大正8年の大火の際には被災者にすばやく義援金が分配された様子が見えます。

### 4 復興への途2 ～屋根の材料をめぐる～

伝統的な日本の家の屋根はカヤや小さい木の板(木羽)、ワラなどによって作られていました。この屋根が火災を広げる大きな原因だとして、改善すべきという声は大正の大火以前からありました。

大正6年の大火を受け、米沢では市役所や警察が今後建てられる家の屋根はトタンや瓦などの燃えない物だけに制限する方針を押し進めていきました。しかし、大火によって家や財産を失った被災者のうち、比較的高価な燃えない素材をすぐに準備できたのは一部の人がただだったようです。

### 5 「米沢五大祝典」の開催 ～「復興」へ向けて～

大正11年(1922)10月29日、2度の大火からの復興を祝う祭典が催されました。これは、「米沢市庁舎落成」「市区改正竣工」「米沢絹織物同業組合本館落成」「県立工業試験場落成」「県立米沢工業学校創立二十五周年記念」を祝うものとして「米沢五大祝典」と呼ばれました。仮装行列が市街地を練り歩くなど、大きな催しだったことがうかがえます。

この催しが復興に至る一つの区切りではありましたが、大火の傷あとは依然として癒えていなかったこともうかがえます。今日に至るまでには、その後の多くの人びとの尽力があったことは想像に難くありません。

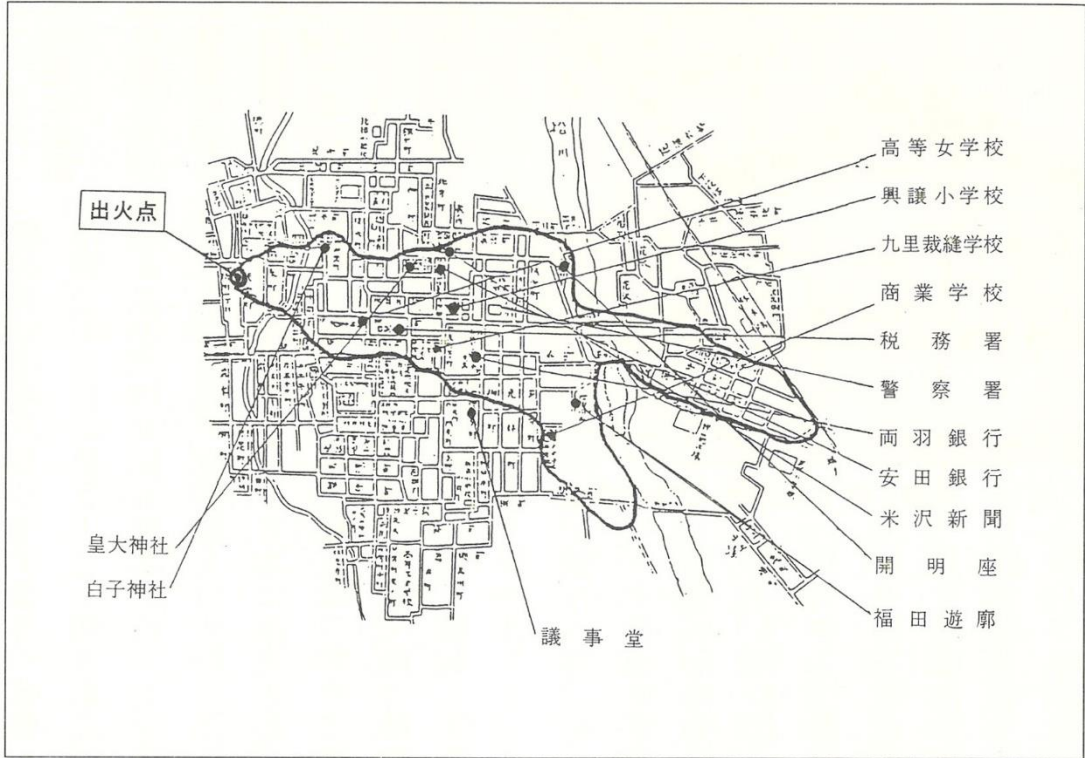
(参考資料)

## 江戸時代以降の主な大火

発生年月日	(西暦)	火元	焼失戸数
寛永17年2月	1640	桂町	1000戸以上
正保3年3月	1646	与板町	500戸以上
明暦3年4月	1657	加地町	660戸
万治3年3月	1660	糶町	1087戸
寛文10年3月	1670	門東町	221戸
寛文10年4月	1670	門東町	271戸
安永9年4月	1780	銅屋町	120戸
文化8年3月	1811	糶町	200戸以上
文政7年4月	1824	糶町	1012戸
弘化4年3月	1847	山上裏町	592戸
文久3年3月	1863	糶町	約600戸
元治元年4月	1864	西割出町	1240戸
明治28年5月	1895	東町	82戸
明治32年4月	1899	免許町	335戸
明治40年7月	1907	舘山口	62戸
明治43年5月	1910	塩野	127戸
大正6年5月22日	1917	代官町	2294戸
大正8年5月19日	1919	舘山口	1071戸

(参考) 米沢常備消防所『米澤卜消防』、昭和5年発行。  
登坂又蔵編『米澤市史』、昭和19年発行。

大正6年大火の焼失区域



大正8年大火の焼失区域

